

永頼会設立 60 周年記念座談会

2024年6月27日永頼会設立60周年記念座談会第2弾が行われました。OB、OGの皆さんを山本理事長、柚木院長をはじめとした現職員が囲み、思い出話に花が咲きました。初めに、60周年の節目に作成した、松山市民病院創立の経緯を辿るVTRをご覧いただき、薬師寺眞氏、岡本博氏の話を中心に当時の市民病院について、これからの市民病院について語り合う機会となりました。

語り手：山本理事長（山）、柚木院長（柚）、飯氏（飯）、孝橋氏（孝）、高須賀氏（高）、青木氏（青）、北村氏（北）



写真前列左より 松長聡美図書室司書、柚木茂院長、山本祐司理事長、元事務長 飯豊氏
後列左より 浅野光孝事務長、元看護部長 北村信子氏、井上より子医療社会活動室長
元師長 青木香代子氏、松山ホスピタルサービス元支配人 孝橋八千代氏、
元図書室司書 高須賀京子氏、神野耕次事務次長

山：戦後の土地区画整備空地の社会的サービスの有効活用として、地域住民が協力して1956(S31)年に松山生活協同組合の松山市民病院を建てました。この永頼会館が建っている場所です。薬師寺眞氏（井関農機専務）、岡本博氏（市議会議員のちに県議会議員）を中心に70人以上の方が発起人となったわけです。1円の価値が大きい時代です。一口250円の組合費を集めながら大変なご苦労の連続でした。

創立精神「市民の市民による市民のための病院」をもとに、「松山市民病院」と名付けられたわけですが、当初は、木造の2階建てだったので、若い医者が、「これが市民病院？」と驚いたのも無理はないです。開設時の20床は、医療部（外科・内科）と当初は検便に力をいれていた保健衛生部でした。

1957(S32)年、愛生院80床（結核専門）と合併し、1964(S39)年11月1日に社会に果たす役割と課題に取り組む為「財団法人永頼会」を設立しました。

1967(S42)年松山中央乳児保育園を設立し、1969(S44)年に松山ホスピタルサービスを設立、1978(S53)年にこの「永頼会館」が完成し、1980(S55)年に薬師寺氏の銅像が作られたわけです。病院棟の増築の一步は、1961(S36)年に始まり（135床）、その後、1994(H6)年に新病院北棟（538床）が完成しました。

孝：薬師寺氏は、最初の松山ホスピタルサービスの社長で岡本氏が専務取締役でした。その後、岡本氏が社長になりました。当院に来られる方、患者さんやご家族、お見舞いの方、職員のための設立だったので、あまり利益は求めませんでした。でも、赤字を出さずに良い品を提供できていたと思います。今もそうだと思いますが、食堂はとても好評でした。

高：薬師寺氏は、作法には厳しい方でした。よく家族写真を見せてくれて家族のことを話されていました。当時の3階B病棟に入院していましたが、顔が広く県知事やたくさんの方がお見舞いに来られていました。当時建設中だった永頼会館の4階に薬師寺会長のお部屋を用意するはずでしたが、一度も入ることなく亡くられたのはさぞ無念だったと思います。

飯：永頼会館は、萩原忠彦設計事務所が建て、コンペで表

彰をうけ、雑誌に載った建物です。今は古くなりましたが当時は、モダンでとても有名な建物でした。私は、中西恒心（つねもと）先生が院長をされているときに入職しましたので、当時のことが思い出されます。

高：中西先生は、職員から「こうしん（恒心）先生」と呼ばれていて、とてもお優しい方でした。もともと軍医であり武家の出身でもあられたので亡くなられた時は胸の上に脇差が置かれていました。

山：当時は高度経済成長期でもあり、とてもいい時代でした。今は389床まで減床しましたが、これも時代の流れに沿ったことです。救急の輪番性の維持も、人材不足で苦労が絶えません。以前、「治す・支える・癒やす・活かす」というスローガンをだしたのですが、病院経営も、治すだけの時代から変化してきています。並行して、「癒やす」努力も大切です。新たに緩和ケア病床をつくったり、空いた病室も様々に活かしたりしているところです。

飯：事務長時代には、愛媛で2台目のCTを入れました。当院は意思決定がはやくスピード感是他院に負けていなかったと思います。病床を増やすことに邁進し538床にまで大きくなりました。病院の成長期ともいえる良い時期に事務長をさせてもらったと思っています。今後は、サステナブル、持続性が重要になってきます。また、時代に合わせて職員一人一人の個を高めることも重要でしょうね。

柚：院長になって4年になりますが、当初はコロナ禍で大変でした。今年は、いろんな方々の助言もあり、手術支援ロボット「Da Vinci Xi」を導入しました。今後も当院は急性期の病院としてやっていきたいと思っています。救急車の受入れ台数は減っていないのですが救急の輪番制を維持するのはやはり大変です。そこに、看護師不足というとても深刻な課題があります。

青：看護師確保の大変さは永遠に変わりませんね。就職先も幅広くなっています。今は価値観が大きく変わってきました。時代のニーズに合わず戦略が必要でしょうね。

北：いつの時代でも松山市民病院の看護師はやさしく親切で、患者さんに心から信頼される事が一番だと思います。

山：時代が変化し持続可能型にするにはどうするかは、やはり人なんです。病院経営も人も成長がないと未来がありません。常に新しい方法がいます。マイクロサージェリー時代から血管内治療、開腹から腹腔鏡、開胸から鏡視下、そしてロボットです。「永頼会」も一般財団法人になり松山ホスピタルサービスも関連事業部に入りました。しかし、人件費や減価償却費はなかなか減らないですが。

柚：今後も、諸先輩方にご指導いただきながら理事長とともに経営と病院をもちたて頑張っていきたいと思いません。本日はありがとうございました。

（文責：医療社会活動室 井上より子、総務課 松井美里）

